

大雨と強風に対する農作物の事前・事後対策

令和元年6月27日
農業技術課

気象庁からは、熱帯低気圧から変わる台風と前線の影響により、東日本では27日昼頃から28日昼頃にかけて雷を伴った非常に激しい雨が降り、大雨となる見込みとの気象情報が出されています。

熱帯低気圧は、27日6時には奄美大島の南東約110キロにあって、1時間におよそ40キロの速さで北北東に進んでいます。中心の気圧は1002ヘクトパスカル、中心付近の最大風速は15メートル、最大瞬間風速は23メートルとなっています。

今後は次第に進路を北東に変えて、27日昼頃から28日にかけて西日本太平洋側から東日本太平洋側にかかり接近し、今後24時間以内に台風となる見込みです。

今後の気象情報に注意し、被害防止のための事前・事後対策の徹底をお願いします。



○共通事項

- ①気象情報に注意し、事前対策を早め実施する。熱帯低気圧や台風が接近した場合には、強風等による人的被害の危険性が高まるので、大雨や強風が治まるまでは、見回り等を行わない。また、大雨が治まった後でも増水した水路その他、危険な場所には近づかないなど安全には十分注意し、転落、滑落事故に遭わないように慎重を期す。
- ②ハウス等については、強風に備え、金具等の緩みなどを点検、補修するとともに、マイカ線などによる被覆資材の固定、妻面の補強など、暴風対策を実施するとともに、飛来物による損傷を防止するため、周辺で強風によって飛ばされる恐れのあるものは、あらかじめ片付けておく。また、農機具庫や作業小屋等についても必要な補修や強風対策を行う。
- ③収穫期を迎えた農作物については、集出荷施設等の指示に従って収穫を行うが、未熟なものは収穫しない。

○果 樹

〔事前対策〕

- ①冠水、滞水の恐れのあるほ場では、排水路を点検、補修、整備する。
- ②傾斜地等では、樹冠下の土壌流亡を防ぐため、敷ワラや敷草を行う。
- ③モモ、スモモ等収穫期を迎えている品種は、集出荷施設等の指示に従って収穫を行うが、未熟なものは収穫しない。

＜立木果樹＞

- ①倒伏や主幹部の損傷を防止するため、支柱等により固定する。帆柱が設置してあるモモ園等では、針金を点検し補修する。
- ②枝のゆれによる落果を防ぐため、風の当たりやすい枝を中心に支柱等で固定する。
- ③反射マルチが敷いてある園では、強風でマルチが飛ばされないようにマルチ押さえを追加する。

＜棚栽培果樹＞

- ①強風による棚のゆれや倒壊を防ぐため、つか杭を追加し、棚の周囲に防風ネットを設置する。
- ②強風によって、新梢が棚面から外れるのを防ぐため誘引を見直す。

＜施設果樹＞

- ①施設栽培では、棚やパイプ等の骨材の点検を行い、必要に応じて補修や補強を行う。特にビニールがまくられないようにマイカ線等を点検する。
- ②ブドウ簡易雨除けハウスにおいて、風当たりが強い園では、ビニールがまくられないようにマイカ線で補強する。
- ③アウトウやブドウの雨除けハウスでは、施設の倒壊を防ぐため、風が強くなる前にビニールを巻き上げる。

〔事後対策〕

- ①園地が滞水している場合は、速やかに排水を行う。また、傾斜地で根元の土壌が流亡している場合は、土寄せを実施する。
- ②樹が倒伏した場合は、台風通過後直ちに、根を切らないように樹を起こし、根元に土を寄せ支柱等で固定する。
- ③太枝が裂けた場合は、裂傷部をビニールで覆い、縄等で結束する。なお、裂傷がひどい場合は、裂傷部を平らに剪除し、ゆ合剤を塗布する。
- ④モモにおいて、二重袋の外袋が外れたものは、袋をかけ直す。
- ⑤落果した果実は、病害の伝染源となるため、速やかに園外へ持ち出すか、土中に埋める。
- ⑥ブドウにおいて、カサがまくれた場合は、かけ直しを行う。葉ズレ、カサズレ、打撲のひどい果粒は摘粒する。特に、着色期以降のブドウでは、裂果が発生しやすいため、裂果が見られた場合は、速やかに除去する。
- ⑦強風や雨によって枝葉や果実等への損傷や泥のはね上がりから、病害の発生が心配されるため、防除暦にしたがい薬剤防除や発病果を除去する。
- ⑧施設栽培では、棚やハウスの骨材、ビニール、各種の装置、機具、機械等を点検し、破損のある場合は修理する。

○野菜

【事前対策】

- ①ほ場周辺の排水路を点検、補修、整備し、排水路からの逆流防止のため、ゴミ等を取り除く。また、ほ場内には、排水溝を設ける。
- ②風の強く当たる地域では、ほ場周辺に防風ネットを設置する。
- ③ナス、トマト、キュウリ等は、倒伏を防ぐため、支柱の補強、固定、誘引等を行う。
- ④施設栽培では、パイプ等の点検、補修を行うとともに、ガラス温室は飛しょう物による損傷を防ぐため施設周辺の清掃、防風ネットの設置を行う。

【事後対策】

- ①滞水しているほ場は、速やかに排水を行う。
- ②茎葉の損傷などにより、病害の発生が懸念されるため、防除基準にしたがって予防散布を徹底する。
- ③茎葉の損傷が激しい場合は、樹勢回復を図るため葉面散布を行う。
- ④ナス、キュウリ、トマト等は、キズ果を早めに除去し、樹の負担の軽減を図る。
- ⑤倒伏したものは速やかに引き起こし、誘引する。この際、根を切らないように注意する。
- ⑥スイートコーンは、無理に引き起こすと根を傷めるので、原則そのまま管理する。管理作業等の支障になる場合は、なるべく根を切らないように引き起こす。

○花き

【事前対策】

- ①野菜の事前対策①～②に準拠して、被害防止に努める。
- ②露地切り花は、フラワーネットや支柱などの点検・補強を行い倒伏防止に努める。
- ③鉢花の露地ベンチ栽培では、ベンチに固定できる鉢利用（C鋼鉢）や穴あきトレイを利用するなど倒伏防止に努める。

【事後対策】

- ①滞水しているほ場は、速やかに排水を行う。
- ②露地切り花が倒伏した場合は根を切らぬように引き起こす。
- ③茎葉の損傷により、白さび病、灰色かび病など病害の発生が懸念されるため、防除基準にしたがって予防散布を徹底する。

○水 稲

【事前対策】

- ①浸水・冠水害を防止するため、排水路の点検、補修、ゴミの除去を行う。
- ②事前に水口、排水口をふさぎ、水の流入を防ぐ。

【事後対策】

- ①浸水や冠水した水田では、早急に排水に努め、新鮮な水を灌漑する。

○大豆

【事前対策】

- ①ほ場周囲に排水溝を設置する。
- ②滞水しやすい部分には、あらかじめ溝切りをする。

【事後対策】

- ①滞水しているほ場は、速やかに排水を行う

○畜産

【事前対策】

- ①畜産施設については、損傷、倒壊等为了避免するため早めの点検を行い、必要に応じて補修を行う。
- ②畜産施設への浸水の恐れがある場合、溝を掘るなどの対策を講じる。また、畜舎への浸水等による家畜への被害に備え、事前に避難場所の確認などを行う。
- ③停電や断水等への対応を確認し、必要に応じて発電機等の手配をするとともに、搾乳作業やバルククーラーの冷却に支障のないよう、万全を期す。

【事後対策】

- ①飼料作物
 - ・冠水や浸水等の被害を受けたほ場においては、速やかな排水に努める。
- ②家畜
 - ・養分の低下した飼料作物や品質の低下した濃厚飼料の給与をする場合は、栄養価や嗜好性等にも配慮し、家畜の生産性が低下することのないよう注意する。
- ③畜舎
 - ・天候が回復した後、直ちに畜産施設内及びその周辺の排水を行う。また、土砂が流入した場合には、再度の土砂流入等の事故に十分注意しつつ、土砂を除去する。
 - ・台風通過後は、畜舎内外の消毒を徹底し、疾病等の未然防止に努める。